

ロッシーニ作曲 歌劇「セミラーミデ」

190726

幕	場	場面	内容	分	主な歌う登場人物					見どころ		
序曲					12							
一幕 95分	1	アゼーマ姫 を愛する アルサー チェ	セミラーミデは、アッシリア王子アッスールと共謀して、15年前に国王ニーノを毒殺した。王子ニーニヤは行方不明である。パール神の祭祀長オローエは、15年ぶりに新王を決定すべきとして神殿を開放し群衆を入れる。インドの王子イドレーノとアッシリアの王子アッスールは、それぞれ新王に指名されることを期待している。 セミラーミデは、神殿に入場し、アルサーチェの名を言おうとした瞬間、雷が落ちて明かりが消え、大騒ぎとなる。	12	オー ロエ	アッス ール	セミラー ミデ		インド 王子 イド レーノ		アルサー チェ の歌	
	2		コーカサス山脈の戦地からバビロニアの土地に戻ったスキタイ人の士官アルサーチェは、パール神の末裔の王女アゼーマとの結婚を望んでいるが、オローエから、ニーノ王の復讐をするように言われる。アルサーチェは、オローエにその理由を聞くとするが、アッスールが現れたためにオローエはそのまま立ち去る。入れ替わりに入ってきたアッスールとアルサーチェとの間でアゼーマ姫を巡って口論となる。	20	オー ロエ	アッス ール	セミラー ミデ	アルサ ーチェ	アゼー マ姫			
	3	勘違いする 母子	セミラーミデは、空中庭園でアルサーチェの再会を待っている。そこへ近衛隊長ミトラネより、メンフィスからの神託をもらい、晴れてアルサーチェと結婚できるものと勘違いする。アルサーチェもセミラーミデに対する忠誠心が評価されて、アゼーマ姫との結婚が認められたと勘違いし、双方が喜ぶ。	40			セミラー ミデ	アルサ ーチェ		ミトラ ネ		セミラー ミデの 歌
	4	ニーノ王の 亡霊	セミラーミデは、ニーノ王の霊廟前の広間で、アルサーチェを夫とし、アゼーマ姫はイドレーノの妃にし、アッシリアをスキタイ人に支配させると宣言する。しかし再度、雷が鳴り響いて、中からニーノ王の亡霊が現れる。亡霊はアルサーチェに対し、王位を継ぐ前に自分を殺した敵を討たなければならない、といい自分をお供にとせがむセミラーミデに対しては、自分が願う時まで待てという。アルサーチェは、ニーノ王の敵は誰なのかを亡霊に問うが、亡霊は何も言わずに去っていく。群衆はパニックに陥る。	23	オー ロエ	アッス ール	セミラー ミデ	アルサ ーチェ	アゼー マ姫		ニーノ 王の 亡霊	セミラー ミデの 歌
二幕 70分	1	ニーノ王 殺害の経緯 を知る アルサー チェ	セミラーミデが部屋で、アッスールから、共謀して15年前にニーノ王の暗殺に関わったことw根拠に恫喝されるが、王宮から祝典の音楽が聞こえてくると、セミラーミデは自信を取り戻し、アルサーチェとの結婚に希望を持つ。アッスールは、破れかぶれになって、アルサーチェを倒すと宣言して部屋を出ていく。	15		アッス ール	セミラー ミデ					
	2		神殿の中でアルサーチェは、オローエから、自分がニーノ王の息子の王子ニーニヤであることを明かされ、その遺言書を見せられる。そこには、暗殺犯であるアッスールとセミラーミデに復讐するように、書かれていた。アルサーチェは自分の母親が自分の父親を殺したということに驚愕するが、神官たちの励ましにより、ニーノ王の宝剣を譲り受けてアッスールへの復讐を誓う。	30	オー ロエ			アルサ ーチェ				
	3		アゼーマ姫が、アルサーチェへの愛を引き裂かれたセミラーミデの決定に不満をこぼしていた。それをたまたま立ち聞きしたイドレーノは驚くが、なおかつ、自分への愛を求め続ける。	5				アルサ ーチェ	アゼー マ姫	イドレ ーノ		イドレー ノの歌
	4	和解する 母子	セミラーミデは、アルサーチェが自分への態度がよそよそしいので問いただすと、ニーノ王の遺言書を見せ付けられる。セミラーミデは、アルサーチェが行方不明だった息子と知り、自分を殺してニーノ王の敵を取りなさい、という。しかし、アルサーチェにはセミラーミデを殺す気持ちはなく、母子の和解の喜びを歌って、アッスールを討つためにニーノ王の霊廟に向かう。	20			セミラー ミデ	アルサ ーチェ				二重唱
	5		アッスールは、アルサーチェを殺そうとしたが、アッスールの太守たちから、オローエが民衆に対してニーノ王暗殺の一部始終を公開し、アッスールの王位継承の可能性はなくなった、と告げられる。しかし、アルサーチェ殺害にこだわるアッスールは、ニーノ王の霊廟に向かうが、幻覚に襲われる。太守たちは発狂するアッスールを正気に返らせたが、アッスールはアルサーチェ殺害に燃え霊廟の中に入る。	10		アッス ール						
	6	アルサー チェと アッスール の決闘	ニーノ王の霊廟の暗闇の中、オローエ達神官、アルサーチェ、アッスール、セミラーミデが入る。アルサーチェは、セミラーミデの声を聴いて暗闇にいることに驚愕し、アッスールも灯りのない霊廟の中で敵をめがけて手探りを繰り返したところで、オローエが合図する。アルサーチェが剣を振りかざした後に、アルサーチェこそが行方不明の王子ニーニヤであることをオローエが宣言する。なんとアルサーチェが殺した相手とはアッスールではなく、自分の母親であるセミラーミデであった。アルサーチェはこの事実を、アッスールから言われて自殺を図ろうとするが、オローエ達神官たちに引き止められる。霊廟の外では、アルサーチェを新王として歓迎する民衆たちの陽気な合唱が響き渡る。	20	オー ロエ	アッス ール	セミラー ミデ	アルサ ーチェ		ミトラ ネ		

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。